

## 松山市都市再生協

松山市や愛媛大などが関わる松山市都市再生協議会が今秋、まちづくりを考える研究拠点「松山アーバンデザインセンター」（UDCM）を中心商店街近くに開設する。そばには市が広場を設け、にぎわい創出への効果を今年10月（から2016年2月まで試行錯誤しながら検証する。

広場は約290平方メートル。芝生を張り、来訪者がくつろげるようミニ噴水や休憩スペースを設置する。UDCM長で愛媛大アーバンデザイン研究部門長の新階泰教授は「広場の設置で周辺がどう変化市民が集まり人の流れができるのかを研究。大学生らを対象にした表面的数字の変化では

授業や他地域のまちづくりの研究や提言も計画している。

## 中心市街地 10月から社会実験



## 夜間の管理など課題も



社会実験に向け松山市湊町3丁目に整備中の広場。左奥の茶色い外壁のビル内に松山アーバンデザインセンターが入る。右上は広場の模型

（武田泰和）

松山市や愛媛大などが関わる松山市都市再生協議会が今秋、まちづくりを考える研究拠点「松山アーバンデザインセンター」（UDCM）を中心商店街近くに開設する。そばには市が広場を設け、にぎわい創出への効果を今年10月（から2016年2月まで試行錯誤しながら検証する。

# 広場設置 集客効果は？

ない部分を見る」と社会実験の狙いを語る。

机上で議論になりがちだったまちづくりをより実践的に人々に身近に感じてもらおうとの取り組みだが、地元には戸惑いもみられる。20日には廣場の在り方を話し合う「中心市街地にぎわい再生社会実験専門部

会」では、地元代表者（）で集客などの波及効果は期待はしている。でも、完成してみ分な説明がないことを訴える声が上がった。「」と吐露。比較対象のイメージがないので、

松山中央商店街連合会の西村正理事長は、「新たに広場ができる」と期待半分、不安半分と期待半分、不安半分と

「新たに広場ができる」と期待半分、不安半分と

会事務局長の坪内洋・市都市デザイン課長は「新たに広場ができる」と期待半分、不安半分と

（）愛媛新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。